

シリーズ 市政の今

心豊かに暮らせるまちづくり

生涯を通じて

健幸（健康・幸福）で文化的なまち

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、まちづくり戦略「心豊かに暮らせるまちづくり」から「生涯を通じて健幸（健康・幸福）で文化的なまち」の施策をお伝えします。



① 青葉山ろく公園陶芸館で陶芸を楽しむ ② 10月に行われた総合文化祭「洋楽・洋舞ジョイントコンサート」の様子 ③ 文庫山学園文化祭で練習したハーモニカを披露する皆さん

市民一人ひとりが心豊かに暮らせるまち

皆さんは、どんなことで心が豊かになりますか？文化に触れている時？スポーツをしている時？それとも学んでいる時でしょうか？心豊かになる時は人それぞれ違います。市では、「生涯を通じて健幸（健康・幸福）で文化的なまち」を実現し、皆さんが心豊かに暮らせるまちづくりを進めています。

文化を楽しむ創造するまちづくり

文化や芸術活動に参加することは、私たちの日常に楽しさや生きがい、喜びをもたらすし、時に生きる力を与えてくれます。市では、平成25年3月に文化振興の方向性を示す文化振興基本指針を策定し、平成28年4月に文化振興条例を施行。平成29年6月には、文化振興基本計画を策

定し、先進的に文化の振興に取り組んできました。

その取り組みの中心は、市民文化団体やNPOなどによる文化創造活動で、これらの活動が交流・連携し、さらに活性化されるよう支援しています。

また、北近畿でも最大規模の1,600人を収容できる総合文化会館や子どもからお年寄りまでが気軽に陶芸を楽しめる青葉山ろく公園内の陶芸館などの公共文化施設は、文化活動の拠点として大きな役割を果たしています。多くの人々に利用してもらえよう、ニーズに合ったプログラムの提供や情報収集・発信などを行うことで、文化創造活動を後押しします。文化振興基本計画に基づく「すべの市民が文化を楽しみ、創造できるまち 舞鶴」まちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市「舞鶴」の実現を目指していきます。

《文化振興課》

スポーツを活かした元気なまちづくり

「スポーツ」と聞くと、陸上や野球、サッカーなどの競技種目のイメージが強いかも知れませんが、朝の体操や散歩、ランニングなどの軽い運動、地域で行うレクリエーション活動など気軽に楽しめるものも多くあります。また、試合を観戦したりスポーツ大会などにボランティアスタッフとして参加したり、地域の子も達を指導したりするなど、さまざまな形で関わることもできます。スポーツの魅力です。

市では、誰もがライフステージやライフスタイルに応じて気軽に楽しくスポーツに関われる機会をつくり、スポーツを通じて生涯にわたる健康で幸福な人生を過ごせる環境づくりを進めています。

また「2020東京五輪」では、ウズベキスタンのレスリング・柔道競技のホストタウンとして事前合宿を受け入れます。同国とスポーツを通じた幅広い交流に取り組むことで、地域の活性化にも大きな効果が期待されます。今後もスポーツ合宿や全国規模の大会を誘致し、本市の魅力の発信と活性化を目指していきます。

《スポーツ振興課》

いつまでも学び活動を続けることができるまちづくり

市民一人ひとりが、心の豊かさや生きがいを持って生活するためには、生涯にわたる学び続けることが大切です。自らの地域について学び知ること、地域への誇りと愛着を持つことにもつながります。そのため、市では、いつでもどこでも学ぶことができる地域社会を目指しています。公民館などでは、それぞれの地域の特徴や世代に応じた「学び」を提供しています。また、さまざまな技能や知識、経験を持つ市民を「まちの先生」として登録し、地域や学校のイベントなどに参加いただくなど活躍の場を広げています。今後も、多様化する学習ニーズに対応しているような「学び」の場を提供していきます。

また、視覚に障害のある人も博物館などの収蔵品を健常者と対話しながら鑑賞することで興味を深めてもらう事業や、障害のある人と健常者が交流する中で、相互の理解を深めることを目的とした事業を実施するなど、市民一人ひとりが支え合い、心豊かに暮らせるよう、さまざまな取り組みを実施していきます。

《地域づくり支援課》



② 施策に関するご意見を

今号の施策に関するご意見や感想をお寄せください。市民や事業所の皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。

▶詳しくは、文化振興課(☎66・1019)、スポーツ振興課(☎66・1058)、地域づくり支援課(☎66・1073)へ。



① 舞鶴赤れんがハーフマラソン2019.参加者と応援するボランティアスタッフ ② 子ども達を指導するウズベキスタンレスリング選手 ③ 公民館で毎年開催されるふれあいサンデーには多くの住民が参加 ④ 小学生と聴覚障害者団体の皆さんが防災キャンプで交流